

第2回富山市総合計画審議会 議事録

日時：令和3年11月8日（月）14：00～15：30

場所：Toyama Sakuraビル 5階大会議室

出席者：下記のとおり

1 開会

2 議事

- (1) 第2次富山市総合計画後期基本計画（案）に対する答申案について
- (2) 第2次富山市総合計画基本計画（案）について
- (3) パブリックコメントの概要について
事務局から一括説明。

会長

- ・ 事務局より説明があった答申案について、ご意見、ご質問をたまわりたい。

都市・環境部会長

- ・ 答申案については、各部会から、それぞれ、十分検討された内容をしっかりと盛り込んでいると認識している。
これまで富山市の政策として進めてきたコンパクトなまちづくりを引き継ぎつつ、他の安心安全なまちづくり、自然にやさしいまちづくりについて、内容をバージョンアップしながら、今後の富山市がより安全で魅力的な都市となるように内容を盛り込んだ。

協働・連携部会長

- ・ 答申案については、これまでの検討が反映されていると思っている。協働・連携部会のテーマである協働・連携は、個別の政策分野ではなく、政策全体の進め方に関するようなところが多々あり、それぞれの分野を跨いだ形で、協働・連携の必要性が強調されていると思っている。
- ・ 市民協働という概念については、以前からいろいろな形で言われており、本市においても、定着しつつあると思うが、それプラス、市民と行政と企業や、民間の非営利団体という幅広い意味での協働に関する意見や、その協働の核となるコミュニティの維持、発展に関する意見なども数多くいただいたところであり、それらについても答申案に反映されていると考えている。

- ・ 答申の中には、意識を高めるであるとか、いわゆるソフト的な面が数多く言及されていると同時に、障害のある方が外出しやすいまちづくりというところで、ハード的なところも合わせて必要であると協働・連携部会では考えている。そのようなソフト、ハードの両面で、個別具体の政策を着実に進めていただきたい。

人材・暮らし部会長

- ・ 人材・暮らしというのは非常に身近な話題であり、委員からもたくさんご意見をいただき、パブリックコメントなどでもたくさん意見が出ている。
- ・ いろいろな意見がある中で、後期計画の基本的な施策の方向として、ひとづくり、健康づくり、まちづくりの3点でまとめられている。特に3番目のまちづくりに関しては、地域の支援が必要な子どもや高齢者が自立して暮らせるまちづくりという視点でまとめられている。
- ・ 個別的にはいろいろな政策、施策が必要となるが、担い手を育成確保していくこと、そのための教育環境の整備、或いは、多様化する社会の中で非常に今日的な課題が多々生まれてきており、そのための基本的な理念がまとめられていると思う。
- ・ 新型コロナウイルス感染症が暮らしに関わるということで、ウィズコロナ或いはアフターコロナ、そして新たな感染症対策など、予期せぬことに対しても、現在の知見などを踏まえて対応していけるような健康づくりを目指していくこと、そして、切れ目のない子育ての支援や、超高齢化社会にも対応できるような連携について、3つの視点で、大まかな方向性が出されている。
- ・ 個別の課題はたくさんあると思うのでその点については個別の実施計画の中で実行していただければと思う。

活力・交流部会長

- ・ かいつまんでポイントだけ説明させていただく。
一つは、商店街、まちづくりの問題だが、駅周辺と中心商店街、地域商店街の役割について、これからどのように対応していくかという話し合いがされた。
農林産業、或いは水産業におけるスマート農林水産業やDX（デジタルトランスフォーメーション）に関して、今後、産業面においてどのように対応していくかという意見を積極的にいただいた。
- ・ 観光交流のまちづくりでは、今、かなり痛手をこうむっているわけだが、今後、やはり観光、交流をいかに促進していくかということに対し、広域観光、滞在型観光を中心に拡大していきたいという意見があった。
- ・ 働く側の、雇用者の問題について、生き生きと働けるようなまちづくりを進めるべきではないかということや、歴史、文化、芸術の関連性で、まちづくりの視点を改めて、今後拡大して欲しいという点について、各委員から積極的なご意見をいただいた。

委員

- ・ 中山間地のことについていろいろな意見を述べさせていただいた。
- ・ 総合計画の中に具体的に中山間地域に対する支援等を織り込むということは難しいと思うが、中心部と中山間地域がバランスのとれた発展をしてこそ、魅力ある富山市ではないかと強く思う。県では、中山間地域対策室という既に中山間地支援の専門部署を設けており、ぜひともここは中山間地域の衰退を防ぐというか、中心部とバランスのとれた発展を目指すために、市に専門の部局が設置されるべきではないかと強く思う。
- ・ 総合計画後期計画を進展させていくためにも、定期的なフォローアップを行う必要があると思うので、どういうタイミングでどういうフォローアップを行うかということ、明確にしていく必要があるのではないかと思います。

会長

- ・ コンパクトシティの概念が、委員の中でも一人ひとり違い、市民の中でも違うということもあるため、これを共通項で表すべく、Q&Aのようなものを作って、用語の概念をきちっと説明すべきではないかと考えている。

委員

- ・ 本当にすばらしい内容でもあり、こんな富山市になったら素晴らしいなと思うが、果たしてできるのかという思いがある。
- ・ 10何年前にiPhoneが出てきて急に世の中が変わって、これから5年、10年でもものすごい勢いで社会が変わっていくという中で、これでいいのかと感じている。ぜひそういうところは個別案件で拾っていただきたい。
- ・ 普段から高校生や大学生など、若者と接していて、ものすごいエネルギーもあり、前向きにSDGsとか富山市のことをいろいろ考えていると感じているが、それを拾ってあげられる大人がなかなかなくて、それを富山市の窓口を持ち込んでも、やっぱりトーンダウンして帰ってくる状況がある。このような会議やその他いろいろなところに、若者をどんどん登用して、意見を聞いていただきたいと感じた。

委員

- ・ 生産年齢人口という表現については、みんな70歳まで働いているわけだから、もうそろそろやめた方がいいのではないかと思います。
- ・ 都市の「格」を高める施策を進めるためには、自分たちがふるさとを愛するという愛郷心をもっと高める教育なり、いろんな機会をとらえた取り組みが必要ではないかと思う。
ずっと富山に住んでいる人は、富山はいいところだと言っているが、何がいいかよくわからないと言う。逆に富山から出て行った人は意外と富山はやっぱりいいねと言う。幼い

時期から、自分たちを客観的に見たり、あるいは、厳しく見たり、そういうことを常にやる教育が必要かと思う。

- ・ パブリックコメントで、道路が整備されてない、街灯がない、側溝に蓋がないなどの意見があった。財政が厳しい状況になっているので、共助、公助、自助と言うようにみんなで行き組んでいくようなことを作っていくことが必要ではないか。

会長

- ・ 確かに、全ての側溝に蓋をすることができないのはみんなわかっているが、大体どういう基準でやるのかということや、シビックプライドに関しても、何をもって定義するのかという課題があるため、定義集を作ったり、デフィニション（定義）をはっきりすべきと言った。可能なものだけでもいいのでQ&Aを作ることについて検討をお願いしたいと思う。

委員

- ・ パブリックコメントの意見数やタウンミーティングの参加者数が意外と少ないと感じるため、しっかりと宣伝をしていただいて、ある程度のたくさんの人たちに、ご意見を聞くあるいは情報を提供することが必要なのではないか。
- ・ 全体的には総合計画として、大体すべてを網羅して、すばらしい内容になっているのではないかという印象を受けた。

ただ、地区センターというものについて少し見直しをかけていく必要があるのではないかと思う。というのは、都市部であれ中山間地であれ、それぞれの地域の特色というのがあるわけだが、地区に一律に地区センターが設置されている。特に中心部の地区センターが本当に機能しているのかということをしる疑問に思う。

必ずしも地区センターというものではなくて、ある程度モデル的に地域にお任せするというような形をとってもいいのではないかとも思っており、そうすることで、財政的にも若干助かる部分もあるだろうし、地域の行政依存が改善され、自覚を持つことに繋がるのではないか。

何が問題かということ、行政から縦割りでいろいろな依頼があり、ある程度人口が多い地域であれば、十分受けられるが、まちなかも含め規模の小さな地域では、同じ人物が引き受けなければならないという状況になっており、それが広がっていかないという状況もある。このようなことも今の計画では全く関係のない話ではあるが、将来的にはそういったことも一つ、目を届かせていただきたいと思っている。

委員

- ・ 総合計画なので、全体を網羅した内容ということで、全般的に書かれており、それは評価したいと思う。

人口動態が推計されており、どんどん人口が減っていくとされているが、全体の人口減少よりも生産年齢人口の減少の方が、率が高いという状況がある。人口減少対策が記載されているが、これをもう少し各分野で、人口減少でどのような影響があるのかということを見極めていくということが必要ではないかと思う。総合計画として、今までの延長線上で、あれもやるこれもやるという形で記載されているのは、仕方のない面はあると思うが、今後、人口減少によって、今までできたことができなくなるということをもっと少し掘り下げていかないと、持続可能な都市というのは難しいのではないか。これからの政策を実行するにあたってそういう視点を持っていただければと思う。

委員

- ・ 全体的にはコンパクトにまとめられて、素晴らしいと思う。ただ、今の災害の激甚化や頻発化を踏まえて、もう少し様々な多様な方々の意見を入れた方がよかったのではないかという気がした。

国際防災国体では様々な分野の方たちが参加され、災害対応をどうしようということ、様々なシンポジウムや意見交換会があった。高校生や高齢者など、非常に多様な方たちが参加され、一定の意見が決まったわけではないが、様々な方たちの意見を聞くことは大切であると感じた。

- ・ 総合計画後期基本計画については、いかにして実行していくのか。そこら辺の検証も見ていきたい。

委員

- ・ 地区センターは住民にとっては拠り所になるので、高齢社会にあって、現在やっていることよりももっと密着したことを掘り下げる必要があるのではないかと感じた。

委員

- ・ この第2次富山市総合計画は、現場から上げられた内容を整理し、今回の答申をしっかりと議論してまとめているということで、進め方も含めて、非常に素晴らしいと思った。他の自治体では、総合計画は比較的、コンサルティング会社に委託していることが多いと感じており、そういう観点でいうと富山市は、各部局から上がってきたものからしっかりと作られていると思った。
- ・ タウンミーティングの参加者数が少なく、もったいない。例えば若者を巻き込むとかそういう観点で増やしていくという考え方もあると思った。
- ・ 民間活力を活用した効果的で効率的な行政サービスというキーワードがあった。官民連携というキーワードは今後ますます、自治体の財政も考えると、必要性が高まると思っている。富山市は全国に先駆けてこの分野で頑張っている自治体である。その官民連携も富山市だけで取り組むのではなく、今後、県や他の自治体と官民連携の複合的、広域的な取

組がキーワードになると思っているので、ぜひ富山市にはその点を意識しながら、全国的にも引っ張っていく取組を期待したいと思う。

委員

- ・ まちづくりと観光は車の両輪であり、いいまちでないと観光もできななので、まちづくりが非常に重要で、良い富山市を作るためには、市民が施策に関心を持つ必要があるのではないかと感じる。市の規模が大きいせいか、行政が遠いところにあるような感じがあるので、もう少し行政と市民が一緒になってやっていこうという感じがこの政策から広がってほしいと思う。
- ・ シビックプライドについては、市民が自分たちのまちを愛する気持ち、市民が自分の市を愛していくことによって、市が良くなっていくということ、行政ではなくて自分たちでやっていくという気持ちづくりのために、いろいろな仕掛けが必要だと思う。あとカタカナは少ないほうがいいと思う。

委員

- ・ 過疎の問題が一番重要だと感じている。空き家も高齢者も多くなっているが、自治会を中心に、一致団結してやっていくような課題を持って、地域ぐるみで本当に素晴らしいまちづくりをしていきたいと思っている。
また、市の方をお願いしたいが、買い物一つ行こうとしても（目的地は）3 km先であり、歩いてはまず行けない状態である。先日、バスを1日に1往復していただいた。こういったものを商店の方と連携して、もっと増やしていただければ、本当に住みよいまちづくりになるのではないかとと思う。
- ・ 林道が荒れ放題になっている。ぜひ中山間地の方にも、もっと目を向けていただければ町民一丸となって頑張っていくこともできるのでよろしくをお願いしたい。

委員

- ・ コロナ禍での議論になったことで、少し違う状況であれば違うマインドや視点の中で、またさらなる議論の広がりがあったかなというふう思う。やはり今、このコロナ禍で、その業種業態によっては、大変生活にも影響を来していたり、或いは収入も不安定な状況を招いていたりという、そういった中ではやはり行政には安心感をまずは求めているような状況にあると思っている。そのもとで、意見させていただいた内容を大変丁寧に盛り込んでいただいたことを感謝している。
- ・ 外国人労働者の生活環境の部分や、或いは国際都市としてのインバウンドの促進の施策、外国人と共生できるような社会環境づくりといった視点も、今後の地域づくり、都市づくりの中でやっぱり大事になってくるだろうと思っている。こういった点を盛り込んでいただいて感謝する。

委員

- ・ 協働による持続可能な共生社会、シビックプライドの醸成については賛成だが、市民一人ひとりが参画することにより、愛郷心や誇りも生まれてくるのであり、子どもの頃から参画することで初めて将来持続していくことになるのではないかと思う。こんなことやっていると胸を張って言える具体的なことがあることが、市民にとって心強く感じるのではないか。
- ・ 私たち一人一人の力は小さいけれど、みんなでやれば、健康長寿日本一の薬都富山にできるのではないか。

次の戦略として、健康、環境、観光貢献に、歴史の宝庫呉羽丘陵を利活用したらどうか。コンパクトシティで社会的にも有名になっている富山市は、まちなか直近の呉羽丘陵を活用することによって、本当に心豊かな素晴らしいまちができると思う。できれば、呉羽丘陵フットパス推進協議会をつくれたら嬉しい。みんなで一つの目標に向かう大きなうねりを出せたら良い。そうすれば、協働によって健康で幸せに満ちた薬都富山に、富山で休もう、富山で泊まろう、富山に住もうという人がどんどん増えて、富山はますます輝いていくことになると思う。

その簡単な手段として、開始して5年ほど経つが月一ウオークに参加していただき、散策するだけでも自分の歩いた道が自然に大きな道になって里山保全に貢献することになる。健康づくりにも最高である。

それから呉羽丘陵の古道を再生すると素晴らしいウオーキングコースができる。もっと市民に参加していただきたい。環水公園から呉羽丘陵、さらに工事が始まった呉羽山と城山の連絡橋を通り、ファミリーパークまでコースを作ると、素晴らしい観光になると思う。観光には、貝塚や200を超えると言われる古墳群もあり、本当に素晴らしい。ファミリーパークはもう少し手を加えると環水公園よりももっとすばらしい公園になると思う。

- ・ もう一つ、食料自給率や健康のことを考えて、有機農業都市になると良いのではないかと思う。なぜなら富山は農薬使用日本一、寝たきり日本一と言われている。有機農業になることによって農村地域のコミュニティも活性化するし、お互いに支え合う雰囲気づくりができるのではないか。

委員

- ・ 横断歩道を子供たちが渡るときに、車が止まらないことがまだ多いということに関し、必ず手を挙げて渡りたいという意思表示をすることが子供から親へ、親から子どもへ浸透していけば、さらに市民の交通意識が高くなり、車が止まることにもつながるのではないか。また、高齢者の運転も少しずつ変わっていけばいいと思う。

委員

- ・ 後期基本計画は内容も濃く、多岐に渡っている。
全ての部会に共通することだと思うが、富山市単独では成果を上げづらい部分もあると思う。そういう意味では、やはり富山県や隣接市町村との連携が極めて重要だと感じた。所属していた都市・環境部会においては、災害対策、雪対策、景観等の都市空間の整備に関して、県及び市町村との連携が大変重要ではないかと感じた。とりわけ県との連携については、ワンチーム富山に基づく定期的な連携によって、少しでも目に見える成果を上げていただければよいと感じた。

委員

- ・ これまでの審議会で活発な意見がたくさん出て、答申案をまとめるのも大変だったと思うが、かなりうまくまとめてあり、私の意見もそれなりにきちんと入っていて本当に大変だったろうということで、事務局の皆さんに敬意を表したい。
- ・ 以前と比較すると、コミュニティが本当に維持できなくなってきている。コミュニティや地域が持つ機能的な特性が本当になくなってきて、非常に危機感を持っている。今で言うひきこもり、虐待、DVなど、そのような不適切な人間関係のトラブルがおそらく昔にもあったと思うが、何とかうまくやっていたのは、今の時代にはない相談機能がどこかで働いていたからだと思う。そういうコミュニティの機能的な特性がなくなってきているこの時代の中で、何か改善できないものか、ぜひ知恵を絞っていただきたい。
- ・ 前例踏襲と二重行政の解消について、審議会でも実例を挙げて申し上げたが、それにはお金もかからないし、やり方次第だと思う。従来の慣例や習慣にこだわらずやっていただきたい。今すぐでもできることがいっぱいあると思うので、ぜひ取り組んでいただきたいと大いに期待をしている。

委員

- ・ 産業振興に関することだが、富山市の園芸農家が非常に少ない。私は無農薬で野菜を栽培しており、小学生に作った野菜を食べさせたら、スーパーの野菜は食べられないと言う。市は市街化調整区域を外して税収を上げたい面もあるだろうが、近くにある休耕田や耕作放棄地になりつつある農地を一般市民がもう少し使いやすくし、農家の手助けにもなるようにすれば、もう少し野菜の生産も上がったたり、子どもたちの食育の面からも野菜づくりの大変さへの意識が高まったりするのではないかと。
- ・ 富山市全体に言えるのは、自分たち意識が強すぎる。他の市町村の例として、飛騨高山のさるぼぼ通信や八ヶ岳ウォークなど周辺地域が連携した情報冊子が発行されている。観光の面でこういう冊子の作り方、観光誘致を考えてはどうか。

会長

- ・ 本日いただいたご意見に関する対応については、会長である私に一任いただき、11月15日に本審議会としての意見を市長に答申したい。
- ・ 諮問以降、各部会を中心として各委員の皆様には、長期的かつ多面的な視点で、活発な意見をいただき、厚く御礼申し上げます。
- ・ 今後、戦後のベビーブームで生まれた世代が75歳を超えて後期高齢者になる2025年問題や、その前にあまり言われていないが、50歳以上の人口が、50歳未満の人口を初めて上回る2024年問題がある。今後5年間で激変するという危機意識を持ち、あれができる、これができるではなく、世の中は変わらざるを得ない。

例えば、300m間隔にゴミステーションがあったものを5～600mにしないと、財政も将来も担えないかもしれない。学校の統廃合の議論を進めているが、もう少し早く手を打ち、議論すべきだったが、先送りしてきたため、大変苦勞するだろう。自分の任期があと2年だと思えば後継者に考えていただこうと問題を先送りした結果が今である。できないことは、Q&Aに書いたら良い。例えば、すべての側溝に蓋をすることはできないとはっきり書いたらいいのではないか。そういう危機感を共有すべきではないか。

近隣の町内では、夜回りができない。75歳以上の後期高齢者ばかりで、交通事故の危険があったり、歩いて回れなかったりということがあり、2人で車に乗り、1人が運転し、1人がハンドマイクを持って火の用心と言って回るような時代に来ている。

富山市の中心部でも過疎化が起きているという現実の中で、市の総合計画は大変重たいものがあるので、5年経って結局何だったのかということにならないよう、緊張感を持ってやっていただければありがたい。

3 企画管理部長挨拶

- ・ 8月から4箇月にわたり、第2次富山市総合計画後期基本計画案について、それぞれの立場、専門的な見地から、様々な貴重なご意見を頂戴するなど、積極的に審議会に参加していただき、心より厚く御礼を申し上げます。
- ・ 今回諮問させていただいた第2次富山市総合計画後期基本計画は、基本構想で示したまちづくりの基本理念や目指す都市像を実現するために、前期基本計画に引き続く来年度から向こう5年間の本市が取り組むべき施策の方向性を示す大変重要な計画である。
- ・ 後期基本計画は、市職員にとって行政運営の指針となることはもとより、市民、企業の皆様にとっても、今後の富山市がどういう方向性で歩んでいこうとしているのか、どのようなまちづくり、都市を目指そうとしているのかという認識を共有していただき、その上で、行政と市民、企業が連携、協働して、地域づくりを担うための行動指針でもと考えている。
- ・ 今後、答申を踏まえ、市として策定した後期基本計画の内容について、これから市民の皆様には十分理解を深めていただくため、周知の努力を進めていくことはもとより、総合計画に位置付けた施策を着実に実行するため、全庁一丸となって、地域の特性に即した課題

の解決に向けて全力を挙げて取り組んでまいりたい。

4 閉会

富山市総合計画審議会委員名簿
(第2次富山市総合計画後期基本計画策定)

33名、50音順

No	氏名	役職	備考
1	足谷 吉彦	婦負森林組合 代表理事組合長	
2	石田 康博	日本労働組合総連合会富山県連合会富山地域協議会 議長	
3	石動 瑞代	学校法人富山国際学園 富山短期大学 幼児教育学科 教授	
4	今井 壽子	NPO法人花街道薬膳のまちを夢みる会 理事長	
5	梅本 由紀子	富山西交通安全協会 安全運転管理者部会 会長	
6	尾畑 納子	富山国際大学 名誉教授	欠席
7	北岡 勝	富山市自治振興連絡協議会 会長	欠席
8	久保田 善明	富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 教授	
9	小森 基弘	公募委員	
10	佐伯 邦夫	NPO法人富山県防災士会 理事長	
11	佐藤 鉄朗	公募委員	
12	塩井 保彦	公益財団法人富山市体育協会 会長	欠席
13	四宮 敏雄	公募委員	
14	清水 一夫	富山医療圏メディカルコントロール協議会 会長	
15	高木 繁雄	富山商工会議所 会頭	
16	高城 繁	社会福祉法人富山市社会福祉協議会 会長	
17	中井 義則	八尾地域自治振興連合会 会長	
18	長尾 治明	富山国際大学 名誉教授	
19	長澤 邦男	大沢野地域自治振興連絡協議会 会長	
20	中村 和之	富山大学 副学長	
21	中村 茂信	富山市公民館連絡協議会 会長	
22	能作 靖雄	公募委員	
23	舟坂 雅春	公益社団法人富山市医師会 会長	欠席
24	星川 圭介	富山県立大学 工学部 環境・社会基盤工学科 教授	欠席
25	松浦 憲秀	公益社団法人富山青年会議所 理事長	
26	道井 秀樹	とやま市漁業協同組合 代表理事組合長	
27	麦野 英順	富山経済同友会 代表幹事	
28	村上 宏康	とやま未来共創チーム 会長	
29	森田 由樹子	株式会社エコ口の森 代表取締役	
30	山本 覚	株式会社日本政策投資銀行富山事務所 所長	
31	山森 潔	大山地域自治振興会連合会 会長	
32	渡邊 ゆり子	富山市保健推進員連絡協議会 会長	欠席
33	綿谷 雅代	富山商工会議所女性会 会長	